

大谷大學
學長

佐々木月樵著

唯識二十論の對譯研究

佛教研究は、西洋と東洋とをいはず、今ややうやく從來大小乗の古き領域を突破して、正さしく佛教プロパーとも名くべき大乘佛教々理の研究に入る。本書は、著者が多年専心努力しつゝある所の大乗佛教體系中印度大乘教論の根本研究の第一篇也。本研究は三部より成り、第一には本論の精要を討究し、第二には正さしく漢譯三種と西藏譯との全文の對譯研究にして、最後の第二には歐洲の大乗佛教學者プーサン教授等の誤譯、誤解等をも指示したり。根本テキストの上よりして大乘佛教殊に大乘唯心の教理を根本的に研究せんと欲する着實なる人々に本書の必讀を推奨す。本社は、對譯組版上にも他に類なき注意と犠牲とを本書の爲めに拂ひたる事をも附記し置く。

四六倍版洋裝

二百頁

定價金參圓八拾錢

書留送料貳拾七錢

發行所 京都西洞院七條市 內外出版株式會社 振替 東京三九三 大阪三九三 一三三